

日比友好薫る桜

南足柄市に住む綱島繁さん(73)と敦子さん(70)夫妻が5月、交流のあるフィリピン・バギオ市に、豊かな香りが特徴的な早咲きの桜「春めき」の苗を贈った。現地で日系人を支援した日本人男性の遺志を継いで実現させたもので、綱島さんは「日比友好の役に立ててうれしい」と喜んでいる。(母下信之)



「春めき」の花

南足柄の夫妻が贈呈



高校の英語教師だった綱島さんは退職後、東南アジアで日本語を教え、フィリピンでは2012年から2年間、標高約1500メートルあり、避暑地としても有名なルソン島のバギオ市に滞在した。ここで出会ったフィリピン人のマリア・スズキさん(75)の夫だった鈴木光一さん(2008年死去)は、戦後のフィリピンで日系人を支援し続けた「シスター海野」と活動をともにしていたという。

綱島さんは、生前の鈴木さんが日本人の心のよりどころである桜をバギオ市に植えたいと考えていたと聞き、今年3月に南足柄市で「春めき」を栽培する古屋富雄さん(65)に相談。学生時代にバギオ市を訪れたことがある古屋さんは快諾し、苗12本を無償で提供した。

初めは「簡単に持って行けると思っていた」(敦子さん)が、植物を海外に持ち出すには検疫が必要で、フィリピンの許可証取得には1か月以上かかった。横浜植物防疫所からも根の土をすべて洗い流すよう指示され、葉も2枚を残してすべて切り落とした。箱詰めする際は「病人のように大切に扱って」と丁寧に書いた手紙を添えて送り出した。苗は5月12日にバギオ市に届き、鈴木さんが利用していた名門ゴルフ場「バギオオカントリークラブ」と、マリアさんの母校の修道院に贈られた。6月25日には

綱島さん夫妻も参加して贈呈式が開かれ、マリアさんは「本当にハッピーだ」と笑顔を見せた。地元の人々も満開の「春めき」を写真で見て驚いていたという。桜を提供した古屋さんは「2年後には咲き始め、4〜5年で満開になる。検疫を通すのは難しい思ったが、夫妻の熱意が実った」と感心する。綱島さんは「現地の日系人たちが目にする桜は、日比交流のシンボルになるだろう」と話し、満開を迎える日を心待ちにしている。

バギオ市で行われた苗の贈呈式に参加した綱島さん夫妻(右から2、3人目)とマリアさん(同4人目) 〓綱島さん提供